

《履修上の留意事項》【遠隔授業のみ実施】

《担当者名》教授 / 安彦 善裕 教授 / 奥村 一彦

【概 要】

口腔粘膜は皮膚と発生学に基づき一つにするので種々の共通疾患がみられる。口腔内病変を対象とする歯科領域においては、これらの疾患についての正しい知識が必要である。講義では皮膚科学的な面から、皮膚症候学について学び、皮膚口腔粘膜疾患を挙げ、これらの原因・症状・診断・予後・治療を系統的に述べ、歯科診療に役立てることを目的とする。なお、皮膚や口腔の疾患の理解には、臓器としての皮膚の構造・機能についての知識が必要があるので、これについても触れる。

【学習目標】

- 皮膚と口腔粘膜の構造の類似点及び相違点を理解する。
- 皮膚と口腔粘膜の機能を理解する。
- 皮膚症候学について学ぶ。
- 歯科が原因となる皮膚病変について理解する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1)	・ 皮膚の構造と機能	- 皮膚の肉眼的・組織学的構築及び各部の微細構造と皮膚の機能（はたらき）を関連づけて総合的に説明できる。 - 皮膚は器官（臓器）であることを説明できる。	安彦 善裕
2	・ 皮膚と口腔粘膜の構造の比較	皮膚と口腔粘膜の構造の類似点及び相違点を説明できる。	
3)	・ 皮膚症候学	皮膚症状の観察について説明できる。 発疹の性状について説明できる。 発疹の形について説明できる。 発疹の配列について説明できる。 発疹の分布について説明できる。	奥村 一彦
4	・ 皮膚科と口腔病変	紅斑、びらん、潰瘍について説明できる。 全身性エリテマトーデスについて、皮膚と口腔の病変について説明できる。 多形滲出性紅斑について、皮膚と口腔の病変について説明できる。 歯科が原因となる皮膚病変について説明できる。 扁平苔癬について、皮膚と口腔の病変について説明できる。 掌蹠膿疱症について、その原因と皮膚病変について説明できる。 金属アレルギーについて説明できる。 パッチテストの結果と活用方法について説明できる。	

【評価方法】

筆記試験又はレポート（100％）

【備 考】

参考書：参考書

山崎雙次、山本浩嗣、山根源之：歯科医のための皮膚科学 第2版 医歯薬出版 2004年

その他：必要に応じてプリントを配布する。

【学習の準備】

予習として、次回内容を参考書で読む（30分）

復習として、講義内容で疑問のあった箇所をまとめる。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)と当該授業科目の関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医科的、歯科的疾患の知識を皮膚科の観点から修得する（専門的実践能力）

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して歯科に関わる皮膚口腔粘膜疾患の知見を発展させる能力を身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら口腔粘膜の疾患に関わるという歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践する（多職種が連携するチーム医療）。

【実務経験】

安彦善裕(歯科医師)、奥村 一彦(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

両者とも歯科医師、特に口腔粘膜疾患を専門とする診療科の担当者であり、この実務経験を活かし、特に歯科治療において実際に経験することの多い皮膚口腔粘膜疾患について効果的な教育が期待できる。